



五宝 友哉 同窓会長



山下 一夫 学長



森 慶子 鳴教後援会長

本学学生に緊急経済支援金を支給

コロナ禍の中での相互支援の輪

2020（令和2）年5月19日、鳴門教育大学では、「緊急経済支援金」3万円を、本学学生の約3分の1にあたる354人に支給しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で生活に困窮している学生を対象に、4月28日の周知から支給まで21日というスピード感をもって、実施しました。

これは、これまでに鳴門教育大学基金に御寄附いただいた皆様の御厚志はもとより、地域の皆様、鳴門教育大学同窓会、鳴教後援会及び教職員など、多くの方々から緊急経済支援金への御寄附があったからこそ、学生を支援することができたものです。

また、本学では初めての試みでしたが、クラウドファンディング（5月1日～6月30日）を通じて広く寄附を募ることもいたしました。

8月末時点で、およそ500万円（内、クラウドファンディングは1,181,000円）の御寄附をいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

今回の支援の結果の一つとして、学生たちは「人間は独りぼっちじゃない、助け合って生きているのだ」ということを、つまり「相互支援の輪」を、実感することができました。支援を受けた学生たちは、いつか支援の手を差し伸べる側に回り、金銭に限らず様々な方法で困っている人々を支援できる人になる、と信じています。

また、「相互支援の輪」を経験したことは、将来、教員になった時に大いに役立つことでしょう。

これからも本学では、スピード感を持った学生支援策の実施、教師教育のリーダー大学としての社会貢献を果たしていきます。

引き続き、御支援のほどよろしく願いいたします。

鳴門教育大学同窓会や、海外の修了生から、多くのマスクを寄贈していただきました。



山下一夫学長が再任，新体制がスタート



よしひと
美馬 持仁 理事



おまえ
尾前 五朗 事務局長

学長に山下一夫第7代学長が再任されました。任期は2022(令和4)年3月31日までです。

山下学長は「引き続き、教師教育のリーダー大学としての自覚と誇りをもって大学改革を推進していく」と決意を述べました。

新体制下では、大石雅章理事(留任)、佐古秀一理事(留任)のほか、新たに美馬持仁理事(前・徳島県教育委員会教育長)と尾前五朗事務局長(前・岐阜大学財務部長)が着任しました。

鳴門教育大学子ども未来応援プロジェクト

鳴門教育大学では、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に寄与するため、様々な取組を行っています。2019(令和元)年度には、木村直子准教授(子ども発達支援コース)が、子どもの貧困問題に関心のある学部生や大学院生とともに「鳴門教育大学子ども未来応援プロジェクト」を立ち上げました。

本学、徳島県、そして徳島県社会福祉協議会の官民学が連携し推進する事業「徳島県子どもの居場所づくり推進事業」では、県内において民間主導で展開している「子どもの居場所」づくりの取組を各地域に広げ、持続可能な運営とするため、若者の理解促進及び社会参画、地域の課題解決や活性化に取り組んでおり、本プロジェクトが中心的な役割を果たしています。

初年度には、プロジェクトメンバーの学生が、鳴門市や阿波市など5か所のこども食堂でボランティアとして活動したほか、普及啓発活動にも取り組みました。

今後も、子ども食堂をはじめとする様々な子どもの居場所づくりにおいて学校園が子どもや家族を支える地域の中核的な役割を果たすために、子どもの居場所づくりや子どもの貧困問題に理解のある教員の養成に取り組むとともに、県や市町村と連携して子どもの居場所づくりに寄与していきます。

このプロジェクトに関心のある方は、木村直子准教授まで、お問い合わせください。

連絡先: nkimura@naruto-u.ac.jp



プロジェクトに取り組む木村准教授と学生たち



子ども食堂での絵本の読み聞かせ



フォーラムで取組報告をする木村准教授(左)

学部生がチャリティー募金活動を実施



チャリティー活動に取り組む学生

8月6日(木)、学校教育学部理科教育コース4年次生有志が、大学構内でチャリティー募金活動を実施しました。

5月から栽培してきたミニトマトやカボチャなど数種類の野菜を小分けして出品すると、多くの学生や教職員が訪れ、開始から1時間も経ずに終了しました。

今回の企画は、新型コロナウイルス感染症の影響により、アルバイト等ができず生活に困窮する学生に対して、本学が実施した緊急経済支援への恩返しをしたいという学生の思いがきっかけとなっています。

代表学生は「支援金のおかげで多くの学生が助けられた。私もその一人。今度は自分も少しでも役に立てないかと思い企画した。本学の修学支援等に活用してほしい」と、集まった募金を鳴門教育大学基金に寄附しました。

BPプロジェクト：「いじめ・ネットいじめ対策のためのユネスコ会議」議長が講演

2020（令和2）年2月9日（日）、2015年4月の発足から5年目となるBPプロジェクト（宮城教育大学、上越教育大学、鳴門教育大学及び福岡教育大学の4大学による協働参加型プロジェクト）のシンポジウムが東京都で開催され、全国から教育委員会関係者、教員養成大学関係者、学生など150人が集まりました。

シンポジウムでは、ジェームズ・オヒギンズ・ノーマン氏（ダブリンシティ大学教授・アイルランドいじめ防止研究リソースセンター所長）を講師にお招きし、「学校でのいじめの本質・規模・影響を世界的視野で探るーいじめ・ネットいじめ対策のためのユネスコ会議議長の警鐘ー」の演題で講演していただきました。同氏は、

「いじめの形態は多様化しており、それに合わせてさまざまな研究が行われてきたが、これに対応するには、子どもたちが主体的に関われる方法での対策が重要である」と指摘されました。

続くパネルディスカッション「日本のいじめ対策の成果と課題」でも、「子どもたちが自分の意見を言える環境づくりが必要」という意見に集約されていきました。

また、本会の冒頭では、山下鳴門教育大学長が、2019年12月31日に急逝された本プロジェクト顧問の森田洋司鳴門教育大学特任教授の多大な功績に触れ、参加者全員で黙祷を捧げました。



【来賓挨拶】
（公社）日本PTA全国協議会
佐藤秀行会長



【来賓挨拶】
国立政策研究所
中川健朗所長



ジェームズ・オヒギンズ・ノーマン氏

2019年「いじめ・ネットいじめ対策のためのユネスコ会議」議長として、「世界いじめ対策会議」を主宰



パネルディスカッションの様子（左から）金網知征准教授（香川大学）、ジェームズ・オヒギンズ・ノーマン氏、戸田有一教授（大阪教育大学）、葛西真記子教授（鳴門教育大学）、阿形恒秀教授（鳴門教育大学）



森田洋司特任教授の追悼文が、いじめ防止の国際的な学術誌であるInternational Journal of Bullying Prevention（オンライン出版）に掲載されました。（2020年8月）

<https://rdcu.be/b6aiF>

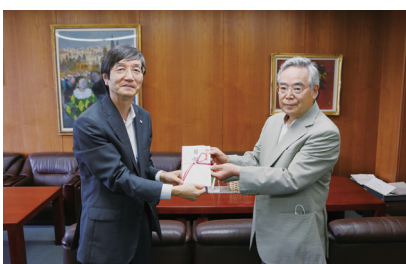
（学術誌には、後日、掲載予定です。）

後藤家文書（金塚コレクション）贈呈式を挙げる

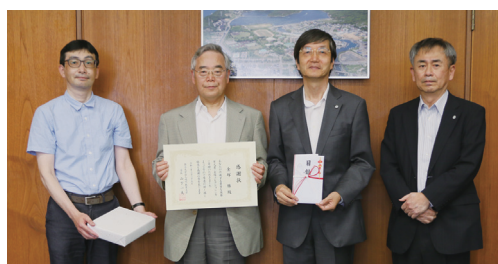
7月1日（水）、本学において後藤家文書（金塚コレクション）の贈呈式が挙行されました。

同コレクションは、旧阿波国名東郡早渕村（現徳島市国府町早渕）の組頭庄屋を勤めた旧家である後藤家に関する古文書2,800点余りで構成され、経営、地域の取締や争論仲裁に関する史料が多数含まれています。

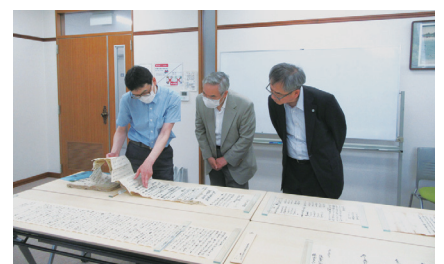
寄贈された古文書とあわせ、本学附属図書館は19,800点余りの後藤家文書を所蔵しています。19世紀における徳島城下周辺の村社会を解明する上で貴重な史料である後藤家文書は、1987（昭和62）年から現在に至るまで、高橋啓第5代学長、大石雅章理事、町田哲准教授が中心となって調査・研究を進めており、更なる進展が期待されます。



山下学長に目録を手渡す金塚勝氏（右）



（左から）町田准教授、金塚氏、山下学長、大石理事



附属図書館に寄贈された後藤家文書

中部大学と連携協力協定を締結



石原 修^{おきむ} 中部大学長

2020(令和2)年7月1日(水), 学校法人中部大学と, 包括的連携のもと, 教育研究等の分野において相互に協力し, 教育研究等の向上に寄与することを目的とし, 連携協力に関する協定を締結しました。

かねてより, 本学と中部大学人文学部は, 臨床心理学の分野を中心に教育・研究での交流を続けてきました。今回の連携協定により, 両大学間での学術交流等がさらに深まることが期待されます。

なお, この度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため, 締結式の挙行を見合わせましたが, 協定締結を機に, 包括的な連携のもと, 公認心理師・臨床心理士及び教員の養成など様々な分野における連携協力を推進していくこととなりました。

創立40周年記念モニュメント「鳴門の風」



2020(令和2)年2月27日(木), 彫刻「鳴門の風」の披露式を挙行了しました。

この彫刻は, 本学が2021年10月1日に創立40周年を迎えるにあたり, 記念事業の一つとして制作され, 総合学生支援棟前の広場中央に設置されました。

制作者の野崎窮教授(2020年4月から名誉教授)は, 披露式で, 次のように述べられました。

この作品のモチーフは鳴門スカイラインの展望台から俯瞰した風景です。約27年前に着任して, 最初に見た景色を今も忘れられません。当初は右も左も解らないことだらけでとても不安な日々でした。しかし, この景色をながめたとき, 意味も無く何か大丈夫, やっていかうという気持ちになりました。

学生さんや教職員の方々にこの彫刻を見て鳴門の自然の素晴らしさを再認識していただき, 元気になってくれたらと思い設置させていただきました。

因みに, 彫刻はプロポーションとバランスが命だと思っています。石板の厚みと石柱の細さ, それらの構成が一つの宇宙を醸し出してくれたらと思い制作しました。

また, 私は原石の割れ肌が好きです。彫刻をつくることはそれを無くすことになりがちですが, 人為的になりすぎないように, 自然の材料の持っている強さを引き出すように加工しました。

作者の「こだわり」は他にもたくさんあります。彫刻をつくる楽しみや鑑賞する楽しみは, この「こだわり」を見出すことにあると思っています。



野崎 窮^{のざき きむ} (彫刻家)

創立40周年記念事業

公式マスコットキャラクター制作 デザイン募集

本学公式マスコットキャラクターの制作にあたり, デザインを広く一般に募集します。制作されたキャラクターは, 40周年記念事業以降も公式キャラクターとして使用されます。

募集についての詳細は, 2020年秋以降, 本学公式ウェブページで, お知らせしていきます。

